



【はじめに】

みなさま、こんにちは。かがや富士子です。夏の参議院選挙では、みなさまには大変お世話になり、心より感謝しております。本当にありがとうございました。この度は「市民の時代を創るぐんまの会」さんの場所をお借りして、政治家になりたい！と、これまで全く政治家を志してこなかった、そして全く政治家らしくない、フツの私が参議院選挙に出馬したこと、選挙戦を通して感じたことを書かせて頂きたいと思います。

【私と家族のこと】

私は現在、35歳で、1歳、4歳、6歳の三人娘の母親です。旦那は無農薬農業で独立して4年近く経ちます。が、根っからのマイペースな夢見る夢男君。なかなか収入に繋がらないのが現実で、もう4年近くも旦那から家計にお金をもらってないので、旦那が美味そうにビールを飲んでる姿を見ると、無性に腹立たしく感じてしまう今日この頃です。そんな私の旦那様、独身

時代は北海道と沖縄で農業をやりながらイベントを企画したり、旅をしたりと、まさに自由気ままな風来坊。一方で、沖縄では基地反対運動、北海道ではアイヌの人たちと関わりを持ったりと、社会的な活動もしていたようです。

私は高校卒業と同時に東京で暮らし始め、大学卒業後は法律事務所で働いたり、飲み屋の雇われママのアルバイトなどで生計を立てながら、時々、イラク反戦などのデモに参加、横浜の寿町というドヤ街（日雇い労働者、ホームレス、生活保護受給者が多く住む街）の夏祭りの司会を毎年手伝うなど、私も社会に対して関心を持ってきました。

結婚と同時に群馬に戻り、今は父親の経営する不動産会社で働きながら、かわいい3人の娘と40過ぎの夫をどうにかこうにか養っております。3人の娘たちは周りの人たちの助けを借りながらも、のびのびと育っていることを有難く思っています。



【え、私が選挙に?! しかもいきなり国政選挙!!!】

2011年、群馬県のお隣の福島県で、原発事故が起こりました。子どもが小さいので放射能に対して不安な気持ちでいる中、私も何かしなければと脱原発デモを企画しました。東京で参加してきたデモをイメージ

しながら、「原発なくてもエエジャナイカ大行進」と言う、今までデモ参加したことがないような人でも参加しやすいデモを目指し、小さい子どもを連れた家族から若者、お年寄りまで、さまざまな人たちがデモに参加してきました。このデモは群馬県内で何度か行い、デモ以外でも集会や講演会などにも関わってきました。そういった活動をしていく中で、元参議院副議長を務めた角田儀一さんを筆頭に、群馬県の民主党から4月の頭に突然、参議院選挙出馬のお話を頂きました。角田さんとは学生時代にボランティアで角田さんの選挙の手伝いをしたことがあり、そう言った縁もありました。

私はこれまで、政治家になりたいなんて、全く思っていませんでしたし、政治家というのは私のようなフツーな人間ではなく、高学歴で立派な肩書を持った人になるものだと思っていました。政治家から程遠い、フツーに生活していた私が突然選挙に出馬、しかもいきなり国政選挙?! なんて私が??? まさに青天の霹靂とはこのことでした。



参議院選挙を戦う相手は TV に頻繁に出ている世襲議員の現職大臣。群馬県は総理大臣を4人も出した保守王国、しかも民主党は大逆風。誰が考えても厳しすぎる選挙。「勝てっこないのに、何で選挙に出るんだ」

と言われたことも少なからず。なのに、何で私が出馬をしたのか…。それは、昨年末の衆議院選挙に続き、今度の夏の参議院選挙でまた自民党が勝利をすれば、TPP も憲法も原発も自民党の思い通り。このままでは日本が取り返しのつかないことになってしまうと、心底不安になっていたからです。

「選挙に出て名前を売りたいだけなんじゃないのか」なんて言う人もいたけど、そんなことのために、わざわざ体を張って、小さい子どもを3人も抱えて国政選挙なんて出ませんよ。

どう考えても厳しすぎる選挙戦、だけどもこのまま何もしないままでいいのか…。子どもは小さいし、私が選挙に出たら私達家族がどうなってしまうんだろう…。考えれば考えるほど不安と恐怖でいっぱいになるけど、他に出馬する人がいないなら、私がやらなければならないのかな、という思いもある。決断するのは出産するのと同じくらいに苦しくて、悩み過ぎて嘔吐することも何度かあったり、熟睡出来なかったりで、出馬を決意するだけで1週間のうちに体重が数キロ減。出馬するかの返事をする数分前まで悩みました。ですが、やって後悔するより、やらないで後悔はしたくない、と勇気を振り絞って出馬するとの返事をさせて頂きました。

ちなみに、選挙に出馬するとき、候補者となる人の相方（うちで言えば旦那）が出馬に対して猛烈に反対するらしいです。が、我が家の場合、旦那は私が選挙に出ることに結構前向きで、「フツーの旦那なら止めるだろ!」と何度か突っ込んでみましたが、「ふーちゃんなら大丈夫だよ」と平気な顔で言っていたので、この人は大丈夫かな、と人生の伴侶として一抹の不安を感じました。

【民主党から出馬…】

民主党には、特に野田政権になってからは残念に思う事が多々あったので、正直なところ、民主党から出馬することに当初は乗り気になれませんでした。でも、参議院選挙という大きな戦いをするには群馬県では民主党で戦うことがベストであるし、群馬県の民主党は比較的にベテランな方たちの集まりであり、民主党本部に対して、民主党を変えていこうと働きかけていると感じたので、一緒に戦おうと思えました。今まで一緒に脱原発の市民運動をやってきた仲間からは民主党から出馬することに反発もありましたし、選挙の挨拶回りをする中でも、街頭演説をする中でも、民主党に対する批判を浴びることもありました。私だって民主党にはガッカリさせられた一人。民主党から出馬する以上、批判を受けるのは仕方のないことですが、選挙に出た途端、矢面に立って大逆風の民主党政権の批判を浴び、泣きたくなる事も度々でした。ですが、それでもグッとこらえて笑顔で選挙戦を戦ってきたのは、この選挙で勝たなければ日本がメチャクチャになってしまうと、候補者としての使命感がだんだんと湧いてきたからだと思います。

参議院選挙で勝ちたい、原発を止めたい、政治を変えたい、そういった大きな事を成し遂げるためには、主義主張はもちろん大切ですが、原理原則に走り過ぎては自己満足で終わってしまう。参議院選挙の総括で角田さんが、「これからの民主党は市民運動と繋がりを持つ懐の深さを持たなければならない」とおっしゃっていましたが、私たち市民運動も、大きな目的を成し得る為には、大局的に物事を見て行く懐の深さが必要であると感じました。

【私の政策について】

私は脱原発の市民運動から出てきたので、もちろん脱原発、福島第一原発の現状を考えれば原発の再稼働に反対です。脱原発の問題だけでなく憲法の問題など政策を明確にする事で、一部の組織から推薦が頂けなかったり、推薦取り消しということもありましたが、自分の思いを曲げては選挙を戦えないと、自分の思いを訴えさせて頂きました。ですが、組織では推薦は出来ないけれど各々では応援して頂いたところもあり、そういった人達が炎天下の中、一緒に外に立ってくれたり、集会に何度も足を運んでくれたり、または集会を開いてくれたりと、そういった姿に胸が熱くなり、本当に感謝の気持ちでいっぱいになりました。

【子どもと選挙と女と政治】

選挙中、「子どもはどうしてるんですか?」「議員になったら、子育てはどうするんですか?」と、聞かれることが度々ありました。本当に心配して聞いてくれる人もいるけれど、遠回しに「小さい子どもの母親なのに選挙に出て…」と言いたそうな人もチラホラ。もちろん小さな子どもにとって、母親の存在が絶大であるということはよ〜くわかっています。でも、母親が子育てに縛られていては、母親の声は小さくなってしまったり、息苦しい環境になってしまったり。「子どもを産みたい」と女性が思える社会になるには女性の声が政治の場に届かなければと思います。また、出生率の上があったスウェーデンでは、男女平等の理念のもと、性別に関係なく子育てと仕事の両立を目指したそう。「母親=子育ての中心」と決めつけるのではなく、さまざまなライフスタイルや子育ての仕方を受け入れる体制をつくる事が少子化対策の一つになるのでは

ないでしょうか。

私は外出時や家事をする時など、いつも子どもをおんぶしています。子どもという時はおんぶしているのが普通の事で、脱原発デモ、集会やコンサートの司会など人前に出る時でも、おんぶをして参加してきました。おんぶは家事をするにも楽チンだし、平日は子どもを保育園に預けているので、一緒にいられる時はおんぶでスキンシップを、との思いもあります。なので、選挙中もいつもと同じ気持ちで、一緒にいられる時は子どもをおんぶしていたい、子どもをおんぶする事で、平和や未来へのシンボリックなものになるのではないかと考えました（とは言っても、おんぶをして選挙活動出来たのは数える程ですが）。集会やコンサートの司会でおんぶをして人前に出ても批判はされませんが、選挙となると、「子どもをダシに使って」「児童虐待」と言われることもあって、しみじみと選挙は特殊なものなんだと、自分の認識の甘さを感じました。



【初めての選挙運動】

辻立ち、集会での演説、公開討論会、政見放送、選挙カーでの遊説などなど全てが

初めての経験で、一つ一つが緊張の連続。出馬表明した頃は演説が大の苦手で、演説が始まったと同時に緊張から頭が真っ白になり、言葉が出てこなかったこともあります。これは今振り返っても苦い思い出で、きっと周りの人達を「この人で選挙を戦えるのか」と不安にさせたことでしょう。それでも集会での演説は100回を超えたようで、だんだんと演説に慣れてはきましたが、最後の最後まで、大きな集会となると緊張から嘔吐をすることが何度かありました。選挙活動を思い返すと3ヶ月と短いですが、良く頑張ったなと自分を褒めてあげたい気持ちになります。人生に置いて滅多に出来ない、本当に貴重な経験をさせて頂きました。

【保守王国群馬県】

今回の参議院選挙はTPPが問われた選挙であったとも思います。TPPは医療制度や食の安全、農業問題など私たちの生活に密着した重要な事であるにも関わらず、私たちの多くがTPPの中身を知らされず、また、あまり問題にならなかったことは大変大きな問題だと思います。そんな中で、農協はTPPに加盟すれば日本の農業が壊滅的なダメージを受けると危機感を露わにし、TPP反対を鮮明に打ち出していました。ですが、投票日の出口調査で、群馬県の農家の8割が自民党に投票したと知り、愕然となりました。もちろん、民主党や私が頼りなく感じたことも原因の一つかと思いますが、群馬県で選挙を戦うのは政策では戦えないのかもしれない（もちろん地盤を作っていく日々の働き掛けが要だとは思いますが）、群馬を変えて行くことは至難のわざであると痛切に感じました。

私は国政選挙で自分の言いたい事を言わ

せてもらえたり、自分の出来ることを精一杯やった、世の中を変えて行きたいとか大それた事はもう考えないで、これからは自分の家族がまともに生活出来る事だけを考えてよう、と思いました。ですが選挙が終わって、群馬県内各地を選挙のお礼で挨拶回りをしていく中で、応援してくれた人達とじっくり話を出来る場を設けて頂きました。私を応援してくれた人達の多くは、これまで長年、農民運動、差別問題、教育問題、労働運動、環境問題等を諦めずに地道に活動してきた人達が多く、こう言った人達の地盤や繋がりを大切にしていかなければならないなど、感じました。大切にしていこうというのは、また私が選挙に出馬するとか、そういった事ではなく、こういった人達と繋がりを持ち続け、私は私の地道な市民運動を続けていかなければならないという事です。諦めずに活動してきた人たちの姿を見ると、一度選挙に出て戦った位で、諦めてはいけないんだと、思いを新たにさせられました。

【選挙を終えて】

選挙が終わって3ヶ月近く経ち、今は育児、家事、仕事に追われる忙しい毎日を送っています。今日は小学校1年生の長女の遠足で、朝からお弁当作りにてんやわんやでした。ですが、娘がお弁当を持って嬉しそうに出掛けていく姿を見て、私も嬉しくなります。選挙中は、朝は早く夜は遅く、子どもと一緒にいる時間が少なくなってしまい、子どもに寂しい思いをさせてるんじゃないかと心配でした。子どもを試すつもりで選挙が終わった後に、「かあかん（お母さん）がまた選挙に出たら、どう思う？」と聞いてみたところ、長女は「かあかんは

選挙を頑張ってたから、また出てもいいよ」と言っていました。4歳の次女は「自民党が強いから、もうヤダ」と言っていて、小さいながらも良くわかっているなど、笑ってしまいました。

私の今後については、いろんな人たちから質問されますが、自分の仕事を続けながら、旦那の作る無農薬野菜で漬物やバジルペースト等の加工品を作って販売してみたいな、とか考えています。もちろん今まで続けてきた脱原発運動も続けていきますし、もっと勉強しなければと強く感じています。選挙に関して言えば、誰かのお手伝いはしていきたいと思いますが、自分に関しては…。

選挙は私の家族や親戚、友人など周りを巻き込まなければならないので、慎重に考えなければと思っています。

長い感想文となりましたが、最後まで読んでいただき、ありがとうございました。そして、私を応援してくれた全ての人に心から感謝致します。

本当にありがとうございました。

そして、諦めずに、これからも一緒に歩んでいきましょう!!!



八ッ場ダムの現状

真下淑恵

民主党政権になって、これでダムが止まる! と大きな期待を持ってから4年、事態は全く逆の方向に動いている。現在行われている関係都県の議会で八ッ場ダム完成時期を4年先送りする国の計画変更案が、賛成多数で通過しつつある。

10月2日に開かれた群馬県議会の八ッ場ダム集中審議で、本体工事を来年10月から2019年9月までの5年間に行い、その後20年3月までの半年間にダムに水をためる「試験湛水」を行う工程表を明らかにし、8日、国の計画変更案に同意する議案を、他の都県に先駆けて賛成多数で可決した。

9月8日、代替地で6月から開業したやまたや旅館に宿泊し、周辺を見て回った。駅のプラットフォームはできあがり、駅舎は工事中だったが、駅前広場の土地はまだ取得されていない。



(できあがったプラットフォームと線路、向こうに工事中の駅舎)

駅の近くにある、何重にもなっている砂防ダムは、両側から崩れて再工事をするのか、ビニールシートがかけられている。

9月末には、代替地で2軒目の宿「山木館」がオープンした。

対岸にある河原畑の代替地



の国道は、工事と崩落と落石事故を繰り返して、無数のアンカーボルトを打ち込みながらも未だに完成していない。



林地区には道の駅がオープンし、にぎわってはいたが、この地域は地滑り防止のために集水井を何本も掘り、水を集めて排出することによって、地滑りを防止している。もし、本体ダムができ試験湛水が始まったとき、現在国交省が進めている対策が十分かどうか大きな不安を感じる。

2万4000年前の浅間山の噴火による泥流が堆積してできた脆弱な土地の上に、治水・利水効果の薄いダムを造る理不尽さに対し、2004年に八ッ場ダムに関わる1都5県で5400人が各都県に住民監査請求を行った。その監査結果に納得できず、各都県で住民訴訟に踏み切った。しかしながら、事業主体である国交省に対して八ッ場ダムの違法

性を問うことは制度上できず、自治体に対して財務会計上の行為等について争うというかたちをとらざるをえない。6都県の優秀な弁護士の皆さんが手弁当でチームワークを組んで関わっているが、1審は6都県で敗訴、東京は高裁でも敗訴し、現在最高裁で審議中、東京以外は高裁で審議中だが、茨城は12月19日結審の予定、群馬では12月9日3時より危険

性について坂巻幸雄氏が「八ッ場ダムサイトの地盤の安全性について」証言予定である。

財務会計上の行為を問う裁判の先行きは明るくはないが、一連の裁判の中で様々な貴重な資料が明らかになり、国交省が非開示とした利根川流域分割図等についても、情報公開裁判に勝訴し、開示命令が確定したことはひと筋の光である。

国の借金が1000兆円を超え、今後公共物の維持管理に莫大な金額がかかっていくことが予想されているにもかかわらず、このような未来に大きなツケを回す無駄な公共事業が次々と進められていくことに危機感を覚える。

民主党政権になって、中止宣言をする前に、根本から見直す仕組みを何故作れなかったか？そして民主党は公約は守らず、公約にない消費税を決め、分裂し、支持者の気持ちも全く離れてしまった。今回の計画変更案に対して、民主党議員の中にも賛成者がおり、民主党の未熟さを残念に思う。

八ッ場ダムに対して、私たちが今できることは、

○ 吾妻溪谷の美しさ、自然の貴重さを伝え続けていくこと、

10月27日(日)に八ッ場ダム予定地見学会があります。詳細は八ッ場あしたの会のホームページまで

<http://yamba-net.org/>

○ 八ッ場ダム予定地の地盤の危険性・治水・利水の根拠の無さ、作ってしまえば将来禍根をのこすことなどを広く知らせていくこと、

11月17日(日)13:45~16:45

集会「八ッ場ダム七つの大罪」が

高崎のシティギャラリーで行われます。ご都合のつく方はご参加ください。

12月21日(土)

八ッ場ダム住民訴訟9周年報告集会在東京水道橋の前水道会館で行われます。

- ・ 現地見学会の案内を致します。
- ・ 少人数でも学習会のご希望に応じます。
- ・ 八ッ場ダム問題をつたえるチラシや会のニュースなどお送りします。

八ッ場あしたの会

連絡先 090-4612-7073

○ダム予定地の人々の心に寄り添い、私たちにできる支援活動を粘り強くすすめる。

代替地にオープンしたやまた旅館・山木館、旧温泉街でがんばっている丸木屋、ゆうあい、やまきぼし旅館に泊まりに行きましょう。今年中は3000円割引です。川原湯温泉協会のホームページ <http://www.kawarayu.jp/>

水没予定地にとどまりたい方も、少数ですがまだいます。水没予定地からは縄文から江戸に至る貴重な埋蔵文化財が発掘されています。多くの方々が地滑りしやすい脆弱な地盤に不安を感じています。今は工事期間の延長について、都道府県で審議されていますが、近い将来、工事費もこれから増額せざるを得ないでしょう。

まだまだ私たちにできることはあると思います。その一つ一つを積み重ねていきたいと思います。

「市民の時代を創るぐんまの会」

今後の活動

1998年の参議院選挙に山崎紫生さんを候補者として推薦して市民が創る市民のための政治を目指して、活動を始めました。定期的な学習会の開催、統一地方選の年には政治参画セミナーの開催、季刊で会報を発行など行ってまいりました。会報は2010年冬の33号で休刊して、活動を見直してまいりました。このたび、ホームページを開設して、情報発信し、市民の声を届けられる議員の支援をしてまいりたいと思います。

ホームページの内容は下記のようになっておりますので、是非ご覧ください。

ホームページアドレスは、

<http://www5.kannet.ne.jp/~shiminnokai/>

【内容】

- ・トップページ（趣旨など記載）
- ・活動報告（会員の最近の活動など）
- ・会則
- ・歩み（1998年からの活動を紹介）
- ・ラヴェンダー基金（立候補者に対する支援のための貸付基金）
- ・会報（今までの会報を紹介）
- ・県内女性議員（最新情報を記載）

推薦図書

「里山資本主義」

—日本経済は「安心の原理」で動く
藻谷浩介（日本総合研究所調査部主席研究員）・NHK 広島取材班

角川 one テーマ21

2011年夏、中国山地の異様に元気なおじさんたちの革命的行動に衝撃を受けた NHK 広島取材班が藻谷浩介とタッグを組んで「里山資本主義」という言葉を作り、1年半にわたって取材・制作を展開した。

「おいしい地域づくりのためのレシピ」

筒井書房 日置真世著

新しい公共、循環型地域福祉の実践

総会の案内

日時 2013年12月3日（火）

19:00～

会場：群馬県昭和庁舎

1階11会議室

内容 ① 県議会報告

県議会議員から報告

② 総会

・会計報告

・活動報告

・今後の活動について

会員募集

市民の会では、一緒に市民の時代を創る仲間をお待ちしています。会報でご紹介しているセミナーや学習会以外にも、さまざまなネットワークとつながりを持ちつつ活動しています。是非、あなたのお仲間にも会員になっていただき、一緒に活動に参加しませんか。

年会費：1,000円

納入方法：郵便振替 口座番号 00560-1-19509

加入者名 市民の時代を創るぐんまの会

問い合わせ先 事務局 〒371-0202 前橋市粕川町室沢933 内山恵子

市民に時代を創るぐんまの会 <http://www5.kannet.ne.jp/~shiminnokai/>